

2024 年（令和 6 年度）

# 定時総会



## 議案

- 第一号議案 令和 5 年度事業報告
- 第二号議案 令和 5 年度収支決算
- 第三号議案 令和 6 年度事業計画
- 第四号議案 令和 6 年度収支予算
- 第五号議案 役員の選任について（案）
- その他 ①持続可能な組織運営に向けて  
②マンホールカード  
プロジェクトの自立について



令和 6 年 6 月 26 日  
下水道広報プラットフォーム

## 第一号議案 令和5年度事業報告

GKP 活動を「基幹事業」と「広報活動（プロジェクト）」に分類し、「基幹活動」の活動費は全額を GKP 予算（会費収入）で賄い、「広報活動（プロジェクト）」の活動費は GKP として活動する価値を認めた部分に一定額を補助し、必要に応じてプロジェクトごとに協賛金を募ることとして活動を行いました。

そのうえでプロジェクトに配分する事業活動費の大幅な削減を図りましたが、会員数の漸減が続いている一方、令和4年度に情報発信基盤の安定化のためにサーバーを増強したことに伴い固定費は増加傾向となり、厳しい財政状況の改善には至りませんでした。

そうした中であっても各プロジェクトが効率的かつ効果的な活動展開に努めたほか、地方 GKP 活動（北海道、関西、九州）の活性化等により、プロジェクトの全国展開を進めることができました。

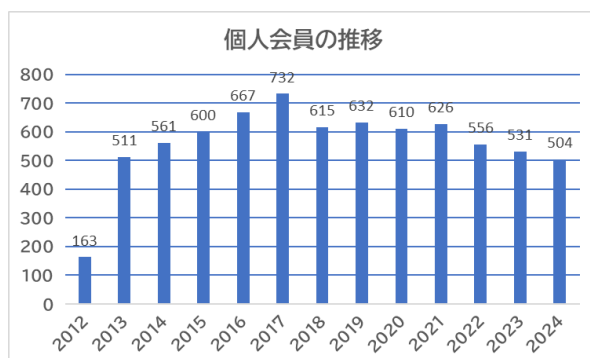
### ※基幹事業と広報活動（プロジェクト）について

基幹事業：情報のデータベース化を担う G K P 広報大賞、会員の情報共有や広報技術の研鑽等を目的とするコミュニケーション研究会

広報活動（プロジェクト）：上記以外の活動

## 1-1 会員数

令和6年6月1日 個人会員：504人、団体会員：138団体



## 1-2 事業報告

4つの柱を設け、17件の活動に取り組みました。

※うち2件が基幹事業、残り16件が広報活動（プロジェクト）

※7・水の天使活動支援、16・Fikaは令和5年度の活動実績なし

1、対象・層の拡大	1・下水道を未来につなげる会（未来会） 2・インフラテクコン 3・チーム市民科学 4・B I S T R O下水道 5・キッチン・バス連携 6・G K P広報大賞※ 7・水の天使活動支援
2、目玉プロジェクトの育成・自立	8・マンホールカード 9・下水道展(スイスイ下水道研究所) 10・エコプロ 11・マンホールサミット 12・東京湾大感謝祭 13・早慶レガッタ
3、会員向けの活動	14・下水道コミュニケーション研究会※ 15・わいがやトーク 16・F i k a(フィカ)
4、活動の地方展開	17・G K P北海道 18・G K P関西 19・G K Pチーム九州

※基幹事業

### 1-2-1 「対象・層の拡大」事業報告

#### 1-2-1-1 下水道を未来につなげる会（未来会）



木更津高専



同志社大学



京都大学

活動目的	下水道界の人材確保のため産官学が連携。 <b>リクルート強化</b> 。下水道の魅力を「学生」に発信し、「 <b>未来の下水道パーソン</b> 」を発掘。
めざす将来像	<b>進路としての下水道界のイメージUP</b> 。SNS等による学びや感動の発信、記事の掲載を通して認知と理解、関心が拡大。水平展開（地方版未来会）で更に効果を高める。
R5の成果	進路としての下水道界のイメージUP（アンケート：下水道界の印象が代わった <b>90%以上</b> ）が図られた。関東（4回）のほか、地方版未来会（関西6回、九州1回）を通じて更に効果を高められた。（参加者数： <b>457名</b> ）。
将来像に対する進捗	コロナ禍前と同数以上の <b>11回</b> のリアルイベントを通して、下水道業界で働く魅力を伝え、下水道の役割や今後の可能性等について理解してもらえた。
課題・改善策	同じ大学での継続実施が重要であり <b>イベント数はほぼ現状維持</b> 。 <b>効率的な運営体制</b> を検討する。
総括	<b>リアルイベントは下水道業界の魅力を伝える上で重要</b> と感じた。リアルイベントでの対面などでメンバー同士の交流の場がくれた。



### 1-2-1-2 インフラテクコン



旭川高専との意見交換会



GKPまちづくり賞を福島高専に授与(交流会)

活動目的	高専の学生・教員と会員との接点を作る。下水道サービスをより良くする高専生らしい斬新なアイデアを発掘する。
めざす将来像	下水道に向き合い、課題を発掘し、解決策を考える機会を高専生に提供。より深い知識を付け、下水道で働きたいという思いを醸成。
R5の成果	下水道課題への挑戦（応募31チーム中7チーム、全体の23%）。 【表彰】 ■GKP大賞：MUZE（鹿児島高専） ■GKP未来賞：チームぼんぼんきりりブート1.1（旭川高専） ■GKPまちづくり賞：排水の陣（福島高専） ■GKPチャレンジ賞：エレクトリカルパレード（鳥羽商船） ■GKP広報賞：かえってきた☆けんせつ野郎&小町（徳山高専）
将来像に対する進捗	上下水道に関連する課題に対して高専生が高い関心を持っていることを確認。高専生・講師に対して上下水道をPRする好機となった。
課題・改善策	アンケート（下水道に対する意識の変化等）の実施、高専チームとの今後のつながりなどを検討。マンパワー・資金の不足が課題。
総括	水インフラなどの提案が多く、協賛する意義がある。高専との関係性を途絶えさせない取り組みを検討する必要がある。

### 1-2-1-3 GKP チーム市民科学



情報交換会



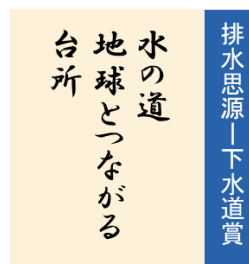
活動目的	市民科学を通じて市民が下水道を自分ごと化し、下水道が支える地域の未来像を共有し、地域の新しい価値を創造するイノベーションにつなげることを目的とする。
めざす将来像	個別相談や勉強会・発表会等を通じて、「下水道の市民科学」の認知度向上、地域における「下水道の市民科学」の活動の推進を支援する。
R5の成果	情報交換会にメンバー2名が参加、下水道展併催の発表会（26名）にはメンバー6名が参加しコメントやアドバイスを行った。個別支援は、東京都、長野県、諏訪市、豊田市、横浜市ほかで実施。また、諏訪湖クラブと連携して諏訪市四賀小学校の連続授業「水はどこからきてどこへいくのか」（8日間）を実施（同クラブは学習冊子を市内全小学校4年生に配布）した。
将来像に対する進捗	コロナ禍の影響もあり、発表会で取り組み発表を行う団体数は思うようには伸びていない。国交省と連携をとりながら、継続的な支援を行い、認知度向上と導入団体増加を図っていく。
課題・改善策	市民科学が下水道の理解促進に有効である旨の普及啓発、具体事例の育成に向け、国交省と連携しながら発表会や情報交換会等を支援する。
総括	市民科学に関する気づきの場を提供、地域の体制づくりが進んだ団体もあった。引き続き相談活動、発表会・勉強会を開催、導入へ結び付けていく。

#### 1-2-1-4 BISTRO 下水道



活動目的	BISTRO下水道に取り組む仲間を増やし、 <b>循環型社会の構築に貢献する。</b>
めざす将来像	<b>官民横断的な協力体制を構築し、下水道資源の農業利用のブランディング、情報の集約・デザイン・発信、広報・宣伝の企画・運営、ブランドサイトの構築とコンテンツの整備、イベントの企画・運営支援などを行う。</b>
R5の成果	BISTRO 下水道の取り組みや販売情報をSNSで発信（ <b>25件、1377リーチ</b> ）。7地域13品目のじゅんかん育ちをイベントに提供。全国から生産者等を含む <b>193名</b> が交流し、下水道資源の農業利用に関する相互理解を深めた。 「じゅんかん育ち」の <b>商標登録を申請。</b>
将来像に対する進捗	食を通じた <b>交流の機会をつくる</b> ため、じゅんかん育ちの調達をメンバー個人がフォローしている状況。消費者や農林水産事業者を重点ターゲットとし、BISTRO 下水道の <b>普及推進</b> とじゅんかん育ちの <b>ブランド力向上</b> に努めている。
課題・改善策	活動を継続するため、関連団体との <b>役割分担</b> を改めて整理する。活動メンバーの固定化と人材不足、事務の負担軽減が課題。
総括	<b>関係者との交流深化</b> が図れた。「じゅんかん育ち」の <b>商標登録申請</b> は下水道資源の農業利用に大きな一歩となる。メディアを活用した情報発信と新たなモデルケースづくりに取り組み、BISTRO下水道の更なる発展に努めたい。

#### 1-2-1-5 キッチン・バス連携



■関連リンク  
 > 日本下水道協会『コップ1杯の油を流すと...』  
<https://www.jswa.jp/suisuiland/3-4-6.html>

キッチン・バスHP「消費者の皆様へ」で、油が下水道に与える影響をPR

活動目的	<b>下水道の入口業界との連携促進。</b> 相互理解の関係を維持・活用し、各種プロジェクトの実践の場や手法などを拡大。 <b>利用者に届きやすい広報を実施。</b>
めざす将来像	両業界に通じる課題に対応。連携広報を展開。下水道理解が利用者に広がり、 <b>下水道の維持管理等に考慮した行動変容</b> が生まれ、 <b>下水道事業が促進しやすくなる。</b>
R5の成果	キッチン・バス工業会の方々に <b>下水道を理解いただいた結果</b> として、同工業会より、 <b>台所から先の影響を喚起する発信</b> をしていただけるようになった。台所お風呂の川柳に協賛、 <b>川柳づくりを通じた下水道の自分ゴト化</b> を推進。
将来像に対する進捗	両業界の相互理解が深まり、キッチン・バス業界から下水道への影響を考慮した台所お風呂製品の使い方などが発信されるようになった。（ <b>行動変容</b> ）
課題・改善策	キッチン・バス工業会との関係を維持することが重要。
総括	下水道（台所・お風呂・トイレ）利用者の行動変容に向け、両業界が互いを理解し合う関係、協力し合える関係を維持したい。



## 1-2-1-6 GKP 広報大賞 ※基幹事業



活動目的	広報の重要性が見直される機運創出。全国的に下水道広報がイキイキと元気に進められるよう熱を高め、優れた取組が広がるよう後押しする。
めざす将来像	業界では誰もが知るGKP広報大賞へ。下水道の認知・理解拡大が進み、下水道が市民により身近で愛される存在に。
R5の成果	広報事例集として厚みが増加（延べ応募総数が <b>206件</b> ）。応募事例を団体別に閲覧できる <b>ホームページ</b> を作成。殿堂団体の発表の場を設け、注目プロジェクトの「その後」をフォロー。下水道界以外の団体からの応募あり（刈谷市雁が音中学校など）。受賞団体に対して <b>生活者から反響</b> 。
将来像に対する進捗	GKP広報大賞への関心度は依然低いですが、 <b>表彰の影響力は徐々に高まりつつある</b> 。受賞団体と生活者の新たなコミュニケーションが生まれるなどの波及効果から、 <b>広報担当者のモチベーションが向上</b> する等の効果がうかがえる。
課題・改善策	<b>担い手不足の解消</b> のため、企画運営委員会で運営に当たることし、その持続可能な体制を整備する。 <b>応募数の増加</b> に向け、国や都道府県を通じての募集通知、評価ポイントの解説動画等の制作、さらなる賞の充実などに努める。
総括	本賞の受賞が「仕事の成果」として組織内で評価されることや、 <b>市民からの反響が広報の現場を活気づけている</b> ケースが見られる。こうした効果についても広く周知していくことが、GKP広報大賞の認知につながると考えている。

## 1-2-2 「目玉プロジェクトの育成・自立」事業報告

### 1-2-2-1 マンホールカード



第21弾より  
・茨城県かすみがうら市(左)  
・愛媛県愛西市(中)  
・広島県府中市(右)

活動目的	市民にマンホールを起点とした <b>下水道事業の役割や重要性を理解</b> していただくこと。これらをさらに <b>地域活性化</b> につなげていただくこと。
めざす将来像	<b>支援基盤（マスコミ、ファン等）の拡大</b> 。MCのコラボ企画を提案する企業などとの連携。メディアコラボレーションによる <b>PR、地域活性化の向上</b> 。
R5の成果	ロットナンバーの付与ルールの見直しと <b>試行</b> 。プロジェクト自立に向け、 <b>新組織立ち上げ</b> の検討結果等を企画運営委員会、理事会に報告した。
将来像に対する進捗	マンホールを起点に、下水道等の <b>役割や重要性を多くの市民に理解</b> いただくと共に <b>地域活性化</b> を促進。プロジェクトの <b>自立</b> も視野に加速化をめざす。
課題・改善策	<b>転売や配布場所の混雑などの問題解消</b> に向け、ロット番号付与の見直し（ロット番号1の入手難易度を下げる）だけでなく一層の改善検討が必要。
総括	<b>海企業・団体・メディアとのコラボレーション</b> には手つかず。今後はプロジェクトの自立とともにこれらの企画展開への対応が求められる。

### 1-2-2-2 下水道展（スイスイ下水道研究所）



ステージの様子



GKP北海道の紹介とマンホールコンテスト

活動目的	下水道展パブリックゾーンの一般来場者に対して下水道事業を分かりやすく紹介する企画の協力。
めざす将来像	下水道が市民生活に無くてはならないものと実感してもらう。今後に向けては、主催の日本下水道協会とパブリックゾーンのあり方について再検討する。
R5の成果	GKP北海道とともに「下水道アカデミアキャンプ」（ステージ）を担当。4日間で約11,000人が来場。
将来像に対する進捗	東京開催におけるパブリックゾーンは中止（日本下水道協会の方針）。地方開催においては、主催地自治体の判断で設置するか否かを決定する。
総括	下水道展札幌のパブリックは札幌市からの要請により2年前から企画準備に入った。札幌市、GKP北海道の積極的な取り組みによりパブリックゾーンは札幌市が全体を企画運営、GKPはステージコーナーを企画担当することになった。会期中はステージイベントも予定通り行い、来場者数も目標をクリアしているので目標は達成したと考える。

### 1-2-2-3 エコプロ



3,900人が来場



微生物の働きを知る



模型で浄化の仕組みを体感

活動目的	国内最大級の環境展示会の来場者（市民や小中学生クラス単位等）に向け、生活に欠かすことのできない水循環を訴求。
めざす将来像	来場者へのより丁寧な対応（展示・説明方法）を検討。財源の確保が厳しくなる中、協賛金募集の方法や出展方法等を検討。
R5の成果	3,900人が来場。展示の分かりやすさのアンケートに「大変わかりやすかった」「わかりやすかった」が8割。見学者の理解度が高かった。
将来像に対する進捗	R5の目標（4,000人）に達しなかったが、ブースに入りきらない時間帯があり、数字以上の達成感。展示は実験や観察など体験型を随所に採り入れ、見学者の関心をひいた。
課題・改善策	ブースが見学者であふれることがあるので、説明の仕方等の工夫が必要。協賛金募集の方法や金額について十分な検討が必要。
総括	実行委員会形式で効率よく進んだ。説明員も来場者（生活者）とふれあって意識が高まった。協賛金の募集方法等については早くからの議論が必要。



### 1-2-2-4 マンホールサミット



岡崎市で開催



メイン会場



マンホール鉄板焼き

活動目的	マンホール蓋という市民に身近な下水道資器材を活用した展示、トーク、各種イベントで来場者に楽しんで頂き、 <b>下水道機能や役割の理解を促す。</b>
めざす将来像	<b>下水道の重要性を認識してもらえる機会の創出。</b> 来場者の増加のみならず、関わり方等（会場に行けなくても楽しめる）を拡大。協力企業や協賛企業の拡大による <b>イベントとしての発展と成功実績の積み上げ。</b>
R5の成果	国・自治体・下水道協会・その他団体が <b>連携した企画</b> を実現。目標来場者の8,000人に対して <b>14,000人が来場</b> し、過去最大規模となった。
将来像に対する進捗	「マンホール蓋」だけでなく、「 <b>下水道</b> 」 <b>全体の理解を深める</b> ようなイベントを多数実施した。（重機体験や、工事のVR体験、トイレの展示等）。
課題・改善策	予算規模が大きくなり、 <b>公募に手を上げ難い状況</b> 。 <b>低予算でも開催可能</b> である旨、理解を得る必要あり。運営にかかる <b>人的リソースの大きさも課題。</b>
総括	岡崎市は熱量が高く、上下水道局を総動員した機動性を有し、自治体が主体的に取り組んでいただいたことで成功した。開催 <b>効果の可視化等が課題。</b>

### 1-2-2-5 東京湾大感謝祭



ステージにて下水道をPR



ブースで下水道の役割を紹介



実行委員メンバー

活動目的	<b>下水道の役割とパワーを紹介。</b> 国交省、9都県市と協賛企業およびGKPが <b>官民一体で東京湾再生における下水道の役割を訴求。</b>
めざす将来像	延べ <b>1100人規模</b> の来場を見込んでブースを出展。ステージは <b>1日1回を2日間開催</b> 。人が集まりやすい赤レンガ前広場への会場変更希望を事務局に提言。 <b>より多くの方にお越しいただけるイベントとする。</b>
R5の成果	2日間の開催で目標（1,000人）を上回る <b>1,100人が来場</b> 。環境に関心の高い方が多く、熱心に説明を聞いていただけた。
将来像に対する進捗	メインステージでの下水道PRは多くの来場者が参加。 <b>ステージの充実に向け、実行委員会編成後早急に取り組む。</b>
課題・改善策	パネル等が各社団体の持ち込みで統一感なし。来場者目線では <b>統一感があった方が見やすい</b> ので、次回は <b>パネル制作も検討。</b>
総括	生活者とコミュニケーションがとれるので説明員も楽しく参加。 <b>官民一体のPRも有意義</b> であった。



### 1-2-2-6 早慶レガッタ



活動目的	隅田川の再生に下水道整備が深く関わっており、早慶レガッタを支えることを通じて、観客に下水道の価値を広く伝えていく。
めざす将来像	下水道と早慶レガッタの関係を、早慶レガッタの観客や関係者に理解してもらい、浸透させる。動画再生回数：20,000回。
R5の成果	レース合間で下水道動画、協賛企業動画配信。約22,000回（配信後4日間、前年度実績約14,800回）（ユニーク視聴数：約11,000）
将来像に対する進捗	令和10年の目標としていた再生回数（20,000回）を令和5年度に達成。令和4年から把握しているユニーク視聴者数の数も参考に、今後、GKPプロジェクトとしての実施の是非を判断する。
課題・改善策	協賛企業数の減少が課題。過去に協賛頂いた会社への再度の呼びかけを行うとともに、早慶レガッタ側が求める金額の交渉を進める。
総括	上記課題を踏まえ、レガッタ協賛の訴求効果を評価し、継続の是非を検討。

### 1-2-3 「会員向けの活動」事業報告

#### 1-2-3-1 コミュニケーション研究会 ※基幹事業



活動目的	情報や課題を共有。団体会員の連携強化と団体会員のメリットを促進。BtoC広報を学び、下水道ユーザーとの協働のあり方を習得。
めざす将来像	コミュ研主催で意見交換の場を提供し、コミュニケーションができるシステムづくりを行う。
R5の成果	エコプロでトークセッションを開催。「水曜日のカンパネラ」元ボーカリストのコムアイ氏などと一緒に「汚した水」について考えた。聴講者約100人。また、GKP広報大賞の受賞者セミナーを開催し、約50の同接を得た。
将来像に対する進捗	今後も活動を継続し、広報の広がりレベルアップを図るっていく。
課題・改善策	YouTube配信など、広報テクニックの取得や下水道関係以外とのコラボなど業界を超えて情報収集できる体制づくり。
総括	今年度はコミュ研メンバー会議と広報セミナーが開催できなかった。広報セミナーは聴講者が多い企画であり、早急に企画に取り掛かる。

### 1-2-3-2 わいがやトーク

活動目的	会員が関心を持つテーマを設定。講師の話を聴くだけでなく、会員を交えて自由に議論し、交流できる場を創出。
R5の成果	<p>講師に元アマゾン広報本部長で現在はAStory合同会社の代表を務める小西みさを氏を迎え、ハイブリッド形式による勉強会「ホントの広報のホントのゴール」を開催。SWOT分析等の実践と発表、質疑応答を通してパーパスの考え方や社会の共感を得るストーリー作りなどを学んだ。</p> <p>日時：令和5年10月17日（火） 会場：日本下水道協会5階会議室 参加：70名</p>
課題・改善策	会員から開催希望テーマを募り、開催頻度を上げていく。



小西氏

### 1-2-4 「活動の地方展開」事業報告

#### 1-2-4-1 GKP 北海道



下水道展のステージ



BISTRO下水道ランチミーティング



じゅんかん育ち

活動目的	下水道を広く市民に知ってもらう。
めざす将来像	下水道の大切さを理解してもらい今後の <b>下水道の発展</b> につなげる。 <b>応分な下水道料金への理解</b> （＝下水道経営の安定化）。 <b>人材リクルートの活性化</b> 。
R5の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「下水道展'23札幌」来場者数：30,450人（4日間）</li> <li>・マンホールカード総選挙：3,354票</li> <li>・ビストロ下水道（アンケート、景品 じゅんかん育ちのお米）：200名</li> <li>・じゅんかん育ち居酒屋（北〇：きたまる）：17組125名</li> </ul>
将来像に対する進捗	来場者に対して、 <b>下水道に関する知識、大切さをお伝え</b> することができた。
課題・改善策	持続的な活動に向け、GKP北海道の幹事の継承・引継ぎ、GKP北海道会員の積極的な参加が重要。下水道を学んでもらう <b>コンテンツの充実</b> も課題。
総括	下水道展に <b>3万人超</b> の来場。札幌市の企画に <b>提案・支援・資材調達</b> の面で協力したほか、BISTRO居酒屋を実現することができた。



## 1-2-4-2 GKP 関西



広報イベント「下水道夏祭り」



GKP未来会が運営に協力

活動目的	関西地方における下水道広報に関わる様々な関係者が連携して下水道広報を活性化していくためのプラットフォームを構築する。
めざす将来像	自治体と民間企業が連携した広報活動、情報発信を通じて、市民への下水道の認知、理解度を高める。
R5の成果	8月の広報イベントは児童・保護者190人が参加。ほぼ全員が「下水道を知りきっかけとなった」、「また参加したい」と回答、年度当初の目標を達成。
将来像に対する進捗	令和4年度より神戸市・堺市がオブザーバー参加。自治体としての活動の関わり方など引き続き、議論、検討する。
課題・改善策	事前の周知期間を設けて令和4年度より来場者数は上回ったものの想定には届かなかったため、令和6年度は休日の開催など関係者との調整を図る。
総括	2年目の活動として一定の結果を出し、当初の目標を達成できた。自治体が実施している広報活動との連携など、次年度以降の活用について検討したい。

## 1-2-4-3 GKP チーム九州



北九州エコライフステージ



九州施設見学会



活動目的	九州における下水道広報活動に係る交流・連携の母体となる。下水道の真の価値を伝え、活力ある地域づくりに貢献し、地域に笑顔と元気をもたらす。
めざす将来像	下水道の真の価値を広めるとともに九州地域に笑顔と元気をもたらす。
R5の成果	総会や講演会などを鹿児島市で開催。同時に行われた九州地方下水道協会の意見交換会に参加できる民間企業はGKP会員に限られており、GKP活動に一定の評価を頂いた。下水道展2023札幌では、GKP北海道の協力のもと、パネル展示やステージイベントなどを初めて実施。北九州市エコライフステージ、若手会員向け雨水貯留施設見学会（福岡市）も開催した。
将来像に対する進捗	コロナ渦が明けて、今年度は計画を上回る事業を実施できた。今後は、この実績をベースに、継続的に活動を行い、活動を九州全域に広げていく。
課題・改善策	会員や役員は設立当初とほぼ横ばい。今後は役員や会員について若手の勧誘を進め、世代交代し、持続可能な活動団体になるように取り組んでいく。
総括	連携して活動を行った福岡市や北九州市、九州地方下水道協会などから、下水道の広報活動をボランティアベースで行っている団体として評価頂いている。その評価を定着させ、GKPチーム九州の活動をさらに発展させていく。

## 第二号議案 令和5年度収支決算

プロジェクトに配分する事業活動費の大幅な削減を図りましたが、会員数の漸減が続いている一方、令和4年度に情報発信基盤の安定化のためにサーバーを増強したことに伴い固定費は増加傾向となり、厳しい財政状況の改善には至りませんでした。

収支決算は次頁の通りです。



令和5年度  
下水道広報プラットフォーム（GKP）  
収支決算書

令和6年5月29日  
下水道広報プラットフォーム

# 令和5年度下水道広報プラットホーム(GKP)収支決算

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

令和6年5月29日

## 1. 一般会計

### (収入の部)

項 目	令和5年度 予算額 a	令和5年度 決算額 b	整理 番号	差額(a-b)	摘 要
1. 前期繰越金	3,822,558	3,822,558	①	0	
2. 未収会費	66,000	8,000	0	58,000	
個人会員(令和3年度分)	0	1,000	②	△ 1,000	1名未納分
個人会員(令和4年度分)	36,000	7,000	③	29,000	7名未納分
団体会員(令和4年度分)	30,000	0	④	30,000	
3. 年会費	5,200,000	4,871,000	0	329,000	
個人会員(終身会員を除く)	250,000	121,000	⑤	129,000	121名分 / 総数191名(70名未納)
個人会員(終身)	300,000	340,000	⑥	△ 40,000	34名分
団体会員	4,650,000	4,410,000	⑦	240,000	135団体(147口) 分/ 総数138団体(3団体3口未納)
4. 前受会費(個人会員_令和6年度)	0	71,000	⑧	△ 71,000	1団体(2口)+終身会費1名+個人年会員1名分
5. 普通預金利息	0	53	⑨	△ 53	
6. 特別会計からの繰入金	0	0	⑩	0	
7. 雑収入	0	133,493	⑪	△ 133,493	誤振込による返金分(BISTRO下水道、未来会)
合 計 A	9,088,558	8,906,104		315,947	

### (支出の部)

項 目	令和5年度 予算額 a	令和5年度 決算額 b	整理 番号	差額(a-b)	摘 要
1. 総会費	200,000	89,406	1	110,594	講師謝金、資料印刷
2. 役員会(理事会)費	200,000	0	2	200,000	会議費、資料印刷、年3回
3. 企画運営委員会費	200,000	0	3	200,000	委員旅費、資料印刷、年6回
4. 事業活動費	3,104,000	2,496,928	0	607,072	
1)GKP広報大賞費	160,000	61,954	4	98,046	会議費、受賞者・審査員等活動経費
2)地方活動支援費	150,000	150,000	5	0	GKP北海道・チーム九州支援
3)未来会	380,000	245,238	6	134,762	下水道展企画、イベント、パンフ等制作等
4)水の天使	0	0	7	0	旅費、出演料等
5)マンホールサミット	315,000	315,000	8	0	実行委員会運営費
6)キッチンバス工業会連携活動費	110,000	106,340	9	3,660	視察バス借上費、川柳協賛金・副賞
7)マンホールカード	110,000	0	10	110,000	調査費、会議費、資料作成等
8)コミュニケーション研究会	70,000	0	11	70,000	講師謝金、旅費、意見交換会費等
9)東京湾大感謝祭	150,000	150,000	12	0	出展料、水の天使出演料、装飾等
10)BISTRO下水道	382,000	397,066	13	△ 15,066	下水道展企画、商品開発、取材交通費等
11)下水道プロモーション活動費	270,000	264,000	14	6,000	FM番組提供、水の週間資料搬出入
12)市民科学	0	0	15	0	アド・バイザー・ファシリテーター等活動経費
13)インフラテクコン	67,000	50,000	16	17,000	出展料、副賞購入・運搬費等
14)早慶レガッタ	130,000	0	17	130,000	広告費
15)エコプロ	700,000	707,330	18	△ 7,330	小間代、会場装飾費等
16)下水道展	110,000	50,000	91	60,000	発表者宛て支援
5. 事務委託費	2,283,000	2,283,000	19	0	業務委託費
6. その他(事務費)	2,801,558	804,995	20	1,996,563	パンフ制作、HP維持管理、会員証発行、予備費等
7. 終身会費積立額	300,000	340,000	21	△ 40,000	34名入会分
合 計 B	9,088,558	6,014,329		3,074,229	
収支差額(A-B)	0	2,891,775			次期繰越金



2. 特別会計(終身会費積立金)

(収入の部)

項 目	令和5年度 予算額 a	令和5年度 決算額 b	差額(a-b)	摘 要
前年度からの積立金	2,799,257	2,799,257	0	終身会員(34名)の繰入れ
当年度終身会費収入	300,000	340,000	△ 40,000	
一般会計からの繰入金	0	0	0	
利息	0	24	△ 24	
計(a)	3,099,257	3,139,281		

(支出の部)

項 目	令和5年度 予算額 a	令和5年度 決算額 b	差額(a-b)	摘 要
一般会計への繰入金	0	0	0	終身会費残高 (終身会員数314名)
振込手数料	0	0	0	
計(b)	0	0	0	
収支差額(a)-(b)		3,139,281		

監査の結果、上記報告書に間違いのないことを報告いたします。

令和6年5月29日 下水道広報プラットフォーム(GKP)

監査人 秋山 礼子



## ○協賛金(参考)

項 目	収入(a)	支出(b)	差額(a-b)	内訳
マンホールサミット2023協賛金	700,000	700,000	0	1口5万円×10口(10団体) 1口20万円×1口(1団体)
エコプロ協賛金	8,300,000	8,300,000	0	20万円×9団体 / 10万円×1団体 440万円×1団体 / 100万円×2団体
早慶レガッタ協賛金	2,500,000	2,500,000	0	1口×250,000×2団体 1口×2,000,000×1団体
東京湾大感謝祭協賛金	2,650,000	2,650,000	0	1口30万×8団体、1口25万×1団体
計	14,150,000	14,150,000	0	

## 第三号議案 令和6年度事業計画

### 3-1 令和6年度の基本方針

令和6年度も引き続き厳しい財政状況が続くことが見込まれます。その中において GKP が目的を達成すべく活動をしていくため、①組織管理のシステム化、②活動費のさらなる精査、③活動の評価に取り組んでまいります。

#### 3-1-1 組織管理のシステム化

これまで日本下水道協会の全面的な支援・協力のもとで機能していた組織管理について、業務を効率化するシステム（※）を導入し、当該予算を固定費として整えました。これにより、事務局業務を軽減化し、継続的な組織管理が行えるようになります。

※会員管理、決済、イベント運営管理をクラウド上で行える定額制サービスを活用します。

#### 3-1-2 活動費のさらなる精査

全活動について GKP の趣旨に即しているか、予算に見合った効果を上げているかの観点からさらに精査し、予算配分の選択と集中を行いました。

#### 3-1-3 活動の評価

広報活動（プロジェクト）が GKP の趣旨に即しているか、予算に見合った効果を上げているかなど、会員の皆さまの目を通して評価いただくシステムの構築に取り組みます。

### 3-2 事業計画

#### 3-2-1 「対象・層の拡大」事業計画

##### 3-2-1-1 下水道を未来につなげる会（未来会）

以下の学校・イベントでお仕事紹介・ワークショップを予定

木更津高専、日大生産工学部、日大理工学部、立命館大学理工学部、京都大学工学部、龍谷大学理工学部、大阪工業大学工学部、関西未来会イベント、九州未来会イベント

地方版未来会 → 参加者数：150 名以上、イベント回数：5回以上

進路としての下水道界のイメージUP(アンケート「下水道界の印象が代わった」90%以上など)を目標とする。

##### 3-2-1-2 インフラテクコン

人員不足のため令和6年度は活動を一時休止する。

##### 3-2-1-3 GKP チーム市民科学

発表会、勉強会（いずれも時期未定）を実施。

また、メンバーが個人的に行う活動を通じて、市民科学の普及啓発と導入促進等に務める。

##### 3-2-1-4 BISTRO 下水道

じゅんかん育ちのブランディングのため、BISTRO 下水道に係る情報収集・取材、コンテンツ作成、情報発信に努める。



### 3-2-1-5 キッチン・バス連携

令和5年度をもって終了

### 3-2-1-6 GKP 広報大賞

GKP 広報大賞の運営体制を整備し、持続可能なものとしていく。

第12回 GKP 広報大賞は11月頃をめどに募集。

過去の事例集を閲覧しやすく整理するほか、受賞団体のアンケート結果を参考にし、より応募しやすい広報大賞へと改善を図る。

## 3-2-2 「目玉プロジェクトの育成・自立」事業計画

### 3-2-2-1 マンホールカード

新組織を設立し、マンホールカード（MC）の発行及び権利関係の保全など運営、管理を実質的に取りまとめる役目を担っていただく。MCの継続的な発行とマンホールふたを活用した新たな展開（下記）を図る。

- ・MCとゲームメディアとのコラボ
- ・企業とのコラボレーションによるMC展示の拡大
- ・MCを活用した下水道広報のあり方などを自治体に発信
- ・海外に発信するメディアとの連携
- ・関連グッズ開発などでの企業との連携

### 3-2-2-2 下水道展（スイスイ下水道研究所）

令和6年度はパブリックゾーン廃止

### 3-2-2-3 エコプロ

エコプロ2023（12月4日～6日、東京ビッグサイト）に出展。小学4年・5年生を中心にブース来場4千人を目標とする。

### 3-2-2-4 マンホールサミット

第12回マンホールサミット in 富山を10月19日に開催予定。規模自体は駅構内～駅前大通りを中心としたダイナミックな会場設定ではあるものの、テーマやイベントも絞り込んだ近年では比較的規模の縮小したマンホールサミットになると想定。定量目標は現在設定中。

### 3-2-2-5 東京湾大感謝祭

東京湾大感謝祭に「東京 WONDER 下水道」を出展。私たちの暮らしと東京湾再生の要となる下水道の役割や重要性について訴求する。来場者数1,200人を目標とする。

### 3-2-2-6 早慶レガッタ

第93回 早慶対校競艇大会（2024年4月21日）に協賛。

延べ視聴回数25,000回視聴（配信後1週間）

GKP 協賛コメント・CMなどを通し、隅田川の水質改善（水質保全）に寄与する下水道の働きを訴求した。

### 3-2-3 「会員向けの活動」事業計画

#### 3-2-3-1 コミュニケーション研究会

情報や課題共有を通じた団体会員の連携強化に注力する。

- ・ コアメンバー会議（5月、12月）
- ・ 下水道展にて団体会員企業を訪問（8月）
- ・ 広報フォーラム開催（2月～3月）

#### 3-2-3-2 わいがやトーク

会員が関心を持つテーマを設定。

講師を招くなどして会員同士が自由に議論し、交流できる場を創出。

年3回程度開催をめざす。

### 3-2-4 「活動の地方展開」事業計画

#### 3-2-4-1 GKP 北海道

9/10の「下水道の日」にちなみ、普段意識されることの少ない下水道の役割や重要性を知っていただくため、札幌市が主催する下水道イベントに企画・運営支援する。

開催期間：9月28日～29日

来場目標：1,500人

会場：札幌市の中心部にある札幌駅前通地下歩行空間「チ・カ・ホ」

#### 3-2-4-2 GKP 関西

GKP 関西の活動内容の検討

- ・ 活動目的、具体的な活動内容の企画立案、実施

GKP 関西夏祭りの開催

開催時期：8月

開催場所：大阪市下水道科学館

実施内容：子供向けの広報イベント

#### 3-2-4-3 GKP チーム九州

総会・施設見学会の開催と、多くの会員の参加。

5月：長崎市での総会及び講演会、施設見学会を実施

広報イベントでは昨年以上の集客。

7月：下水道展 2024 東京 広報活動を検討

8月：福岡市下水道フェア 福岡市道路下水道局と連携し広報活動を実施

下水道事業研修会で昨年以上の参加。

7月：下水道事業研修会 若手会員を対象とした研修会

#### 第四号議案 令和6年度収支予算

活動費についてはさらなる精査を行い、予算削減に取り組みましたが、組織管理の自立を図るため事務費が増加したため、単年度赤字を避けられない状況となりました。

収支予算は次頁の通りです。



令和6年度下水道広報プラットフォーム(GKP)収支予算(案)

令和6年6月26日

1. 一般会計  
(収入の部)

項 目	令和6年度予算額	前年度予算額	差異	摘 要
1. 前期繰越金	2,891,775	3,822,558	△ 930,783	
2. 未収会費	190,000	66,000	124,000	
個人会員(令和5年度分)	70,000	36,000	34,000	未納個人会員70名
団体会員	120,000	30,000	90,000	4団体(4口)未納
3. 年会費	4,991,000	5,200,000	△ 209,000	
個人会員(終身会員を除く)	191,000	250,000	△ 59,000	1,000円 / 年・人
個人会員(終身会費)(C)	300,000	300,000	0	R6年度入会見込(30名)
団体会員	4,500,000	4,650,000	△ 150,000	30,000円 / 年・企業・団体
4. 普通預金利息	0	0	0	
5. 特別会計からの繰入金	0	0	0	
計(A)	8,072,775	9,088,558	△ 1,015,783	

(支出の部)

項 目	令和6年度予算額	前年度予算額	差異	摘 要
1. 総会費	50,000	200,000	△ 150,000	講師謝金、資料印刷
2. 役員会(理事会)費	50,000	200,000	△ 150,000	会議費、資料印刷、年3回
3. 企画運営委員会費	50,000	200,000	△ 150,000	委員旅費、資料印刷、年6回
4. 事業活動費	2,078,000	3,104,000	△ 1,026,000	
1)GKP広報大賞	110,000	160,000	△ 50,000	会議費、受賞者・審査員等活動経費
2)地方活動支援	150,000	150,000	0	内訳: GKP北海道60,000、チーム九州90,000、関西0
3)未来会	270,000	380,000	△ 110,000	下水道展企画、イベント、パンフ等制作等
4)水の天使	0	0	0	－
5)マンホールサミット	300,000	315,000	△ 15,000	実行委員会運営費
6)キッチンバス工業会連携	0	110,000	△ 110,000	－
7)マンホールカード	0	110,000	△ 110,000	－
8)コミュニケーション研究会	60,000	70,000	△ 10,000	講師謝金、旅費、意見交換会費等
9)東京湾大感謝祭	150,000	150,000	0	出展料、水の天使出演料、装飾等
10)BISTRO下水道	138,000	382,000	△ 244,000	下水道展企画、商品開発、取材交通費等
11)下水道プロモーション活動費	270,000	270,000	0	FM番組提供、水の週間資料搬出入
12)市民科学	0	0	0	－
13)インフラテクコン	0	67,000	△ 67,000	－
14)早慶レガッタ	130,000	130,000	0	広告費
15)エコプロ	500,000	700,000	△ 200,000	小間代、会場装飾費等
16) 下水道展	0	110,000	△ 110,000	－
5. 事務委託費	2,283,000	2,283,000	0	業務委託費
6. 事業事務費	3,261,775	2,801,558	460,217	名刺作成、ホームページ維持、会員管理システム維持など
事務費	400,000	400,000	0	名刺作成、会員証発行費
さくらインターネット維持費	310,000	310,000	0	GKP独自サーバー維持管理費
Wordpress維持管理費	146,000	146,000	0	WordPress維持管理費
PHP及び各種バージョンアップ作業	182,000	176,000	6,000	PHP、WordPressバージョンアップ関連
ホームページ更新費	400,000	200,000	200,000	
会員管理システム(1)導入費	320,000	0	320,000	しゅくみねっと導入費用(初年度のみ)
会員管理システム(2)維持管理費	449,000	0	449,000	しゅくみねっと維持管理費
GKP広報大賞	50,000	0	50,000	
予備費	1,004,775	1,569,558	△ 564,783	
計	7,772,775	8,788,558	△ 1,015,783	
7. 終身会費への積立金	300,000	300,000	0	R6年度入会見込(30名)
計(B)	8,072,775	9,088,558		
収 支 差 額(A)－(B)	0	0		

## 2. 特別会計(終身会費積立金)

(収入の部)

項 目	令和6年度予算額	令和6年度予算額	差異	摘 要
前年度からの積立金	3,139,281	3,570,000	△ 430,719	
当年度終身会費収入	300,000	300,000	0	終身会員 新規入会30名(見込)
一般会計からの繰入金	0	400,000	△ 400,000	
利息	0	0	0	
計(a)	3,439,281	4,270,000	△ 830,719	

(支出の部)

項 目	令和6年度予算額	令和6年度予算額	差異	摘 要
一般会計への繰入金	0	1,430,000	△ 1430000	
振込手数料	0	0	0	
計(b)	0	1,430,000	△ 1430000	
収支差額(a)-(b)	3,439,281	終身会費残高(見込)		

※令和6年度予算について、予算成立までの期間は前期繰越金の範囲で必要最小限執行できるものとする。

※令和3年度より、終身会費は、支出に終身会費への積立額を計上し、あわせて別表にて収支を記載することとする。

第五号議案 下水道広報プラットフォーム（GKP）役員の選任について（案）

（令和6年6月26日現在）

会 長	長 岡 裕	東京都市大学 教授	再任
副会長	長谷川 健司	管清工業(株) 代表取締役	継続
//	中 村 靖	メタウォーター(株) 会長	再任
//	神 山 守	東京都下水道サービス(株) 代表取締役社長	継続
理 事	塩 路 勝久	(公財)日本下水道新技術機構 理事長	継続
//	頼 あゆみ	国土交通省 国土交通大学校 校長	再任
//	小 林 由夏	シニア広報コンサルタント	継続
監 事	秋 山 礼子	NPO 法人 21 世紀水倶楽部 理事	再任

（以上、役員 8 名）

アドバイザー 岡 久 宏史 (公社)日本下水道協会 理事長

// 栗 原 秀人 メタウォーター(株) 技監

●下水道広報プラットフォーム規約（抜粋）

（役員等の選任及び任期）

第 11 条 会長、副会長、理事および監事は、会員の中から総会で選任する。

2 役員等の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

3 アドバイザーは、会長が指名する。

4 アドバイザー及び企画運営委員の任期は、会長が定める。



## その他 ①持続可能な組織運営に向けて 増口をお願い

GKP 活動を持続可能なものとするため、令和6年度より組織管理、活動評価、財政の3つの視点から改革に取り組んでいく所存です。

しかしながら令和6年度の収支予算は単年度赤字となり、不足分については前期繰越金を食いつぶさざるを得ない状況にあります。

※令和5年度の前期繰越金は約300万円ありましたが、令和6年度予算では約100万円と大幅に減少する見込みです

つきましては、法人会員の皆様に会費の増口をお願いしたく存じます。お願いするに際し、改めて GKP の目的、会員メリットを整理いたしました。主旨をご理解いただき、何卒、増口へのご理解を賜りますようお願い申し上げます。

### 1、改革の3つの視点

#### 1-1 組織管理のシステム化

これまで日本下水道協会の全面的な支援・協力のもとで機能していた組織管理について、業務を効率化するシステムを導入し、当該予算を固定費として整えました。これにより、事務局業務を軽減化し、継続的な組織管理が行えるようになります。

※会員管理、決済、イベント運営管理をクラウド上で行える定額制サービスを活用します。

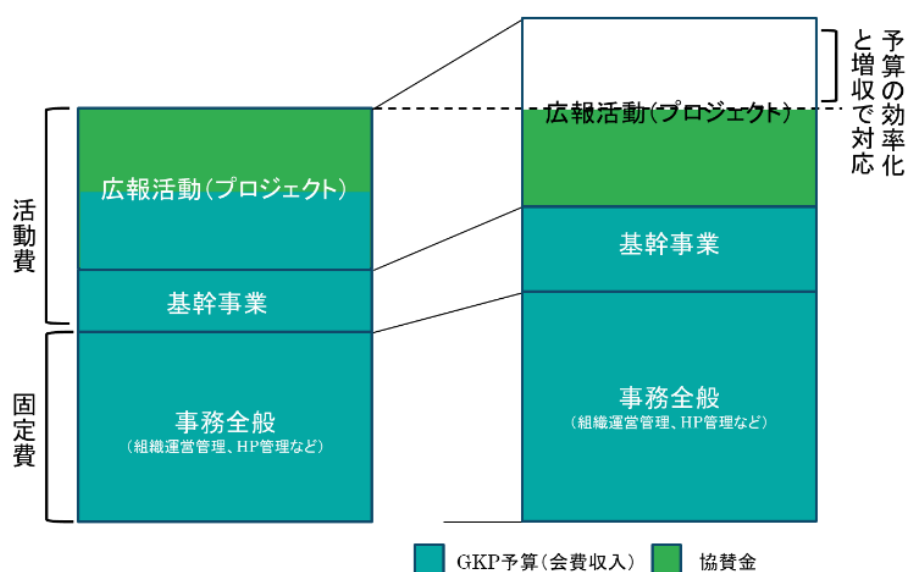
#### 1-2 活動評価

広報活動（プロジェクト）が GKP の趣旨に即しているか、予算に見合った効果を上げているかなど、会員の皆さまの目を通して評価いただくシステムの構築に取り組みます。

#### 1-3 財政

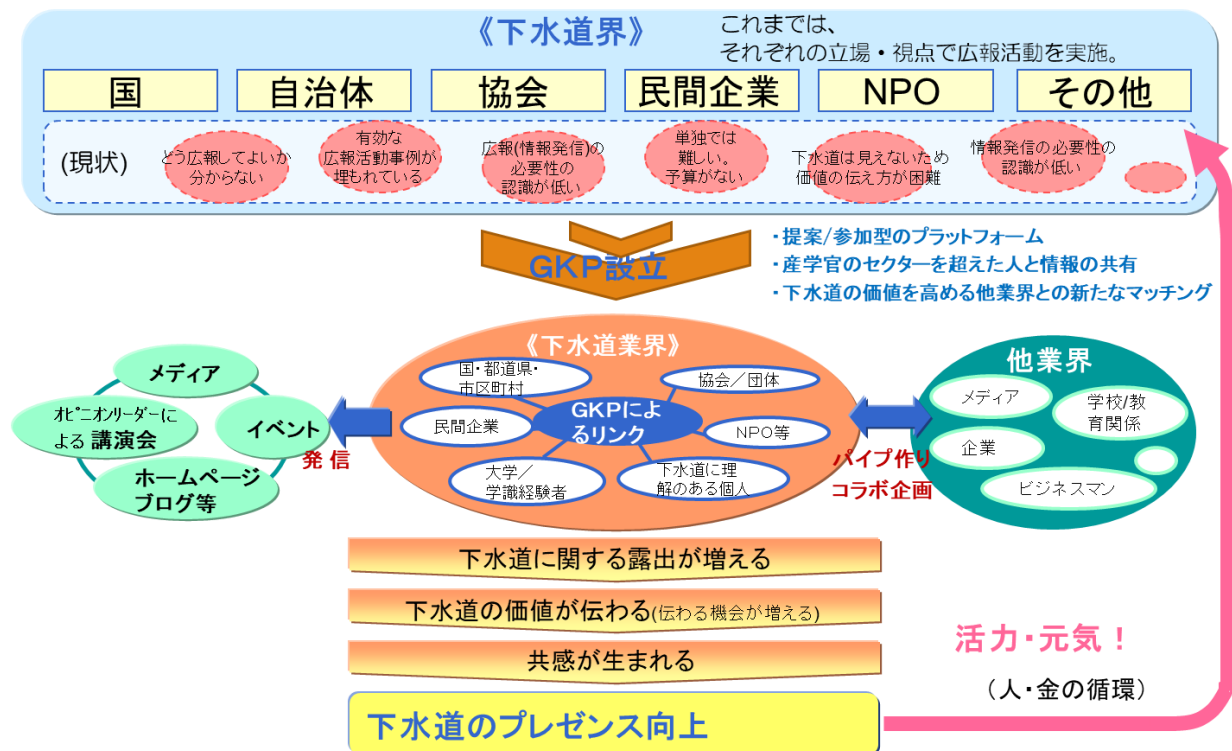
1-1 の取り組みに加え、令和4年度には情報発信基盤の安定化のためのサーバーの増強を図ったことなどにより、固定費が増加し、プロジェクトに配分する事業活動費については令和5年度に大幅な削減を図ったところですが、さらなる効率化が課題となっております。

そこで、1-2 に記した評価システムの導入により、プロジェクトの仕分けを進め、予算執行の一層の効率化を図ることとしております。



## 2. GKP の目指すところ

GKP は、生活者に下水道の真の価値を伝えて共感を生み、下水道のプレゼンスを高めることによって下水道がますます活躍の場を増やし、関わるすべての人々に元気と活力をもたらす姿をめざしています。



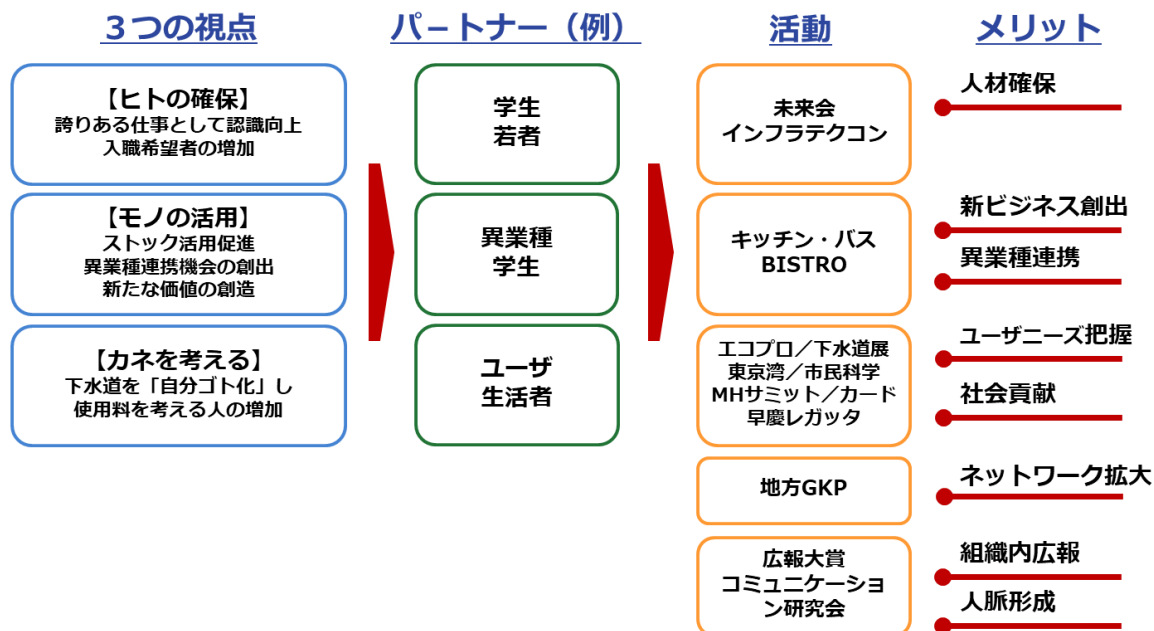
GKP は、会員の「提案・参加」を基本に運営されています。



### 3、会員メリット

GKP は、活動主旨に賛同いただいた会員自らが産学官民や業界の垣根を超えて交流し、活動する場です。

現在、様々なプロジェクトが活動を展開する中で、ご参加いただいた方々からは下記のような声が届いています。



- ・ イベント来場者との交流を通し、生活者の様々な意見や考え方等を知ることができた
- ・ 生活者と触れあう機会が増え、仕事がより楽しくなった（仕事の誇り、やりがい）
- ・ GKP の活動が新たな人材採用の機会となった
- ・ 今まで接点がなかった企業や団体とつながることができた
- ・ 国や自治体の方と活動することにより、自身の人脈が広がった
- ・ 広報活動が多くの人目に触れるようになり、役所への反響が増えた
- ・ 組織内における広報部門の評価が高まった など



## その他 ②マンホールカードプロジェクトの自立について

マンホールカードチームでは、マンホールカードの継続的な発行を図ることを目的に、新組織の立ち上げに向けて動いています。

### 1、マンホールカードの現状と課題

GKP 活動の初期から取り組んできたマンホールカードは、本年4月発行の第22弾で合計1,030種類を超え、発行枚数も累計1,200万枚を超えました。

しかし、過去からの経緯もある中で、現在はボランティアによる制作体制で進められているため、リスクが高く解決しなければならない課題も以下に示すように非常に多くなっています。

#### ■課題

- (1) 商標など権利保全が全くできていない
- (2) データベースのセキュリティ維持にコストがかかっている
- (3) スタッフ全員がボランティアで、体制の持続性に乏しい
- (4) 普及・振興等の企画・実行まで手が回らない

### 2、対応方針

#### (1) 新たな組織による運営支援

本来、GKPはボランティアによる活動が基本ですが、これらの課題を解決するためには、法人格のある組織が必要です。このため、法人格を有する新組織を立ち上げることとしました。また、新組織は、マンホールカードの公共的要素が高いことに鑑み、公平性・透明性があり、自治体の信頼を得られることが重要であるため、「一般財団法人」とします。

#### (2) 新たな組織の事業

新組織においては、下記の事業を実施します。

- ・マンホールカードの運営に必要な商標等の権利保全
- ・適切なサーバーのリースなどセキュリティの向上と維持（リース代の支出など）
- ・運営体制の強化（カードの制作、外部からの問い合わせ対応など）
- ・商標の活用等による収入方策の検討
- ・マンホールカードの普及・振興のための各種企画の立案と実施

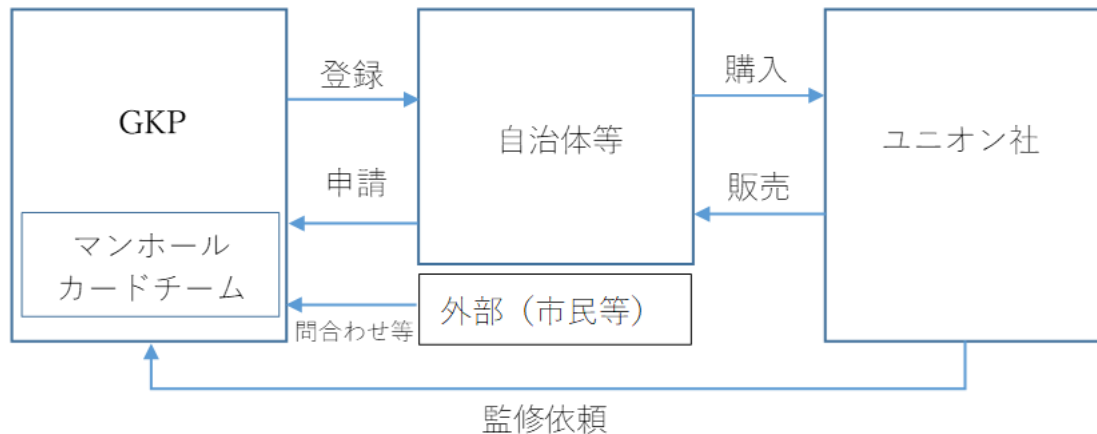
#### (3) GKP との関係

マンホールカードはGKPが企画、制作するものであることは変わらず、自治体と共同で制作するスタンスは維持し、新組織である一般財団法人は、マンホールカードの制作に係る監修やGKPホームページの管理、自治体、ファンからの問い合わせ対応、マスコミ対応、企画の立案など、これまでボランティアが行ってきたことを代行する形でGKPを支援するものとします。

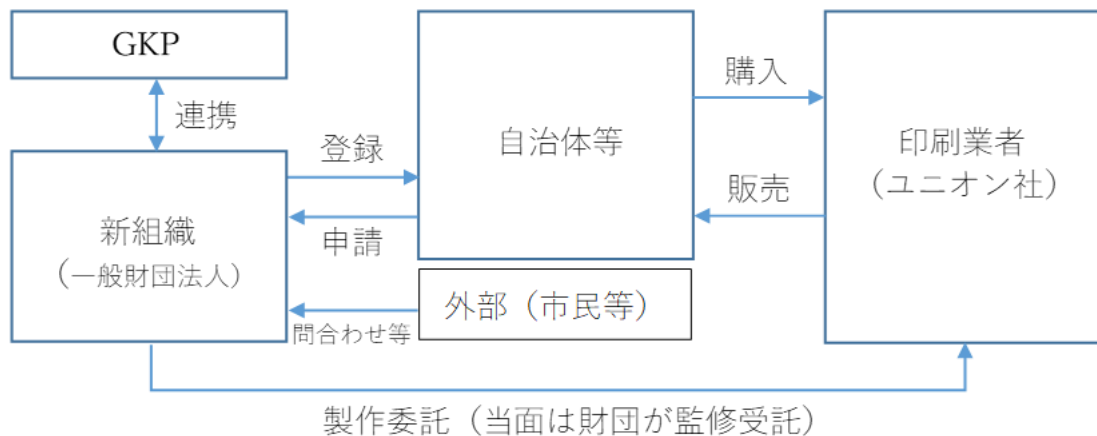
GKP との関係は、覚書等の約定を作成して明確化し、また新組織の構成員の中にGKP関係者を置くものとします。

## 現行と今後の体制の比較イメージ

### 【現在】



### 【今後】



※現行体制から製作チームを組織化して外部化する以外は、外見上現行から変化なし。MM 委員会や MH 企画チームの役割も担う組織とします。

※印刷業者（現段階では未定。想定は現行通りユニオン社）とは一定の契約を結び、両者の関係性を明確化します。

## 3、新組織の体制

### 新組織の人事案

#### ■評議員

- ・森田 弘昭氏 日本大学特任教授
- ・小川 尚氏 (株)カンツール代表取締役社長
- ・GKP企画運営委員会副委員長（未定）

#### ■理 事

- ・那須 基氏 (株)クボタ 顧問
- ・山口 敬義氏 元日本下水道協会常務理事
- ・白濱 公平氏 マンホール愛好家

#### ■監 事

- ・尾崎 正明氏 (株)G & U技術研究センター代表取締役所長

#### 4、新組織の設立資金と運営資金

一般財団法人の設立に必要な資金 300 万円（基金として）は、GKP 関連企業や GKP 会員、マンホールカードファンからの寄付および設立発起人からの寄付により賄うこととします。

また、同財団の運営には、事務所賃貸料、職員の人件費、GKP サーバー維持管理費等で年間 400 万円の支出が見込まれています。これらはカードの制作会社であるユニオンクリエイティブからの監修料（年間 300 万円）とともに、当面は関連企業や GKP 会員、カードファンからの寄付などにより、年間 100 万円を資金調達する予定です。

同財団の運営が軌道に乗り、各種企画（イベントの開催、カードの貸し出し、データ等の提供、企業とのコラボレーションによる製品開発等）による収入の増加が図れるようになった際には、寄付等に依らない運営を進めてまいります。

#### 新組織（一般財団法人）の設立によって変わる事変わらない事

##### ■著作権等の権利・・・変更なし

マンホールカードの著作権は変わることなく GKP と発行主体である自治体が共同で保有します。権利関係については、GKP と新組織の間で覚書等を締結し、権利関係を明確化、明文化します。

##### ■商標・意匠・・・新組織が取得し、管理します

商標登録・意匠登録は、法人格を持たない GKP では取得できないため、新組織において登録費用を支出し登録を行います。その管理も新組織が行います。

##### ■マンホールカードの制作申し込み・・・変更なし

マンホールカードの登録と制作に係る方法や手順は、従来と変わりません。マンホールカード登録申請書・制作書を制作会社であるユニオンクリエイティブに提出していただくことでカード発行までの手順がスタートします。

##### ■マンホールカードの監修・・・新組織の管理のもと制作チームによる監修を実施

これまで GKP・MC 制作チームのメンバーのみで行っていた監修作業を、新組織の指導・監督のもとで同メンバーが実施します。監修の結果をユニオンクリエイティブに提供し、発行自治体と協議のうえカードの記載内容を決定します。監修完了まで新組織が責任をもって進めます。

##### ■マンホールカードの製作・・・変更なし

マンホールカードの印刷・製作・納品までの一連の業務は、従来通りユニオンクリエイティブが実施します。

##### ■見積・契約・納品・請求書の発行及び制作費用のお支払い・・・変更なし

マンホールカードの制作に係る各種手続き、書類等のやり取り、制作費用のお支払いなどの金銭の授受は、従来通りユニオンクリエイティブが行います。

##### ■マンホールカードの管理・・・新組織が行います

発行されたマンホールカードの保管分の保管と管理、マンホールカードの画像や各種データの保管と管理は、新組織が行います。

以上